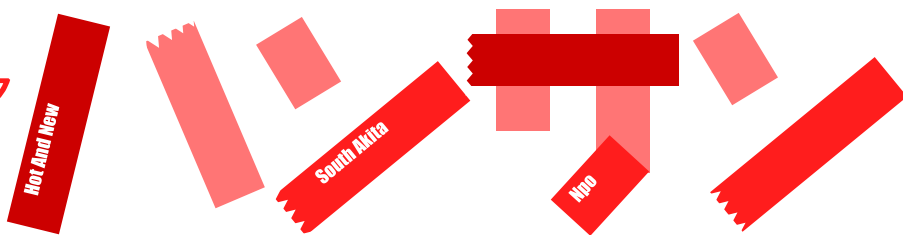


県南のNPOを情報でつなく、ささえる。

秋田県ボランティア NPO 活動ニュース

「県南版」



- P 2活動ウォッチング
株式会社小野建設
- P 3N P Oの基礎知識
事業計画書を作ろう
- P 4秋田県南 NPO センターより
聴覚障がい者のための観光マップを作ろう

今月の表紙

「クロスロードのつどい全国大会@横手」

「3000 人いる避難所で、2000 食を確保した。この食糧を配るか、配らないか」。

「クロスロード」は、阪神・淡路大震災で災害対応にあたった神戸市職員が体験したジレンマをもとに作られたカードゲーム式の防災学習教材です。本県でも、有志によるあきたクロスロード研究会が発足。12月7、8日、横手市で開催された全国大会には、県内外から75人が集まり、地域での活用方法や防災現場での活かし方などについて情報交換が行われました。

(奥ちひろ)

12

December 2019

Vol.148



活動ウォッチング

THEME_CSR (企業の社会的責任)

心を込めた経営で、豊かな地域を作る

DATA_団体情報

株式会社小野建設

代表/小野 雅敏さん

連絡先/TEL 0183-62-0127

心に刺さった出来事が、一つの原動力

「羽後町は農業中心の地域ですが、昔は一軒あたり6反部しかなく、食べていけなかった。家族や地域の人の仕事を作り、農家の暮らしを豊かにしたいという想いで父が起業した会社なんです」。そう語るのは株式会社小野建設の社長、小野雅敏さんです。小野建設は土木、建築、解体工事を中心に様々な事業を展開しています。

その1つが、木質ペレットを燃料として使用するペレットストーブの販売です。きっかけは、産業廃棄物の処理を行う関連会社、クリーンカンパニーの創業でした。「何十年も雨露を凌いでくれた家がただ焼却処分されるのは、悲しい気持ちになります。廃棄するのではなく、再利用して蘇らせることはできないかと思ったんです」と小野さん。解体時に出た木材をチップに加工し、販売するようになったといいます。同時に、木材チップを固めて木質ペレットに加工・販売することを構想。まだ自社製造には至っていませんが、ペ



レットストーブを地域に普及させ、いずれはペレット製造工場を作りたいと考えています。そんな小野さんの夢は、資源とエネルギーを地域内で循環させること。海外から輸入する灯油に頼

らずペレットストーブに切り替えるユーザーが増えることで、廃棄物として出た木材だけでなく地域の間伐材を利用してペレットを作ることができるようになり、森林に関わる新たな仕事生まれるなど、地域内に良い循環が生まれると考えています。「廃棄物を扱うようになって、心の豊かさが大事だという考えが生まれました。卒業したばかりの子どもの卒業証書や1円玉が捨てられていたのを見て、心の冷えを感じて悲しくなりました。経済的にも豊かな地域にすることで、幸せを感じる心を育てたい」と小野さんは言います。

事業による影響に配慮した取り組みが、新たな活動に

クリーンカンパニーの創業は、小野建設にとって、それまで以上に環境配慮や地域貢献に取り組むきっかけとなりました。屋外の最終処分場に降った雨が土壌や下流の池に悪影響を及ぼさないよう、EM菌を活用。毎月の水質検査で害がないことが証明されているといいます。この技術を利用し、小野建設は学校などのプール清掃も行っています。「息子の学校の先生の苦勞を知ったことがきっかけ」と小野さん。なんでも相談してほしいという姿勢から雪下ろしや草刈りなどの生活に関する相談が寄せられており、小野建設はますます地域になくてはならない存在になっています。



高校生が考える SDGs×小野建設

当該企業の活動はSDGsの次の目標にあてはまると考えました。

■目標7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」

ターゲットa「2030年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。」

■目標11「住み続けられるまちづくりを」

ターゲットb「2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。」

木質ペレットは大気中に存在する二酸化炭素(CO₂)を吸収した木から作られており、そのペレットを燃やしてCO₂が出たとしても、地球全体でみるとCO₂の排出量は±0となるため(カーボンニュートラル)、灯油の利用と比べて環境への負荷が少いと思われました。ペレットを普及させることで、林業の発展や森林の多様性にもつなげられる可能性があり、大気の質の向上や水関連災害の減災に効果が期待できると考えました。

取材を通して感じたこと

取材を通して、何度も「地域とのつながり」という言葉が出てきました。環境配慮だけでなく、地域に貢献しようとする小野社長の熱いトークに勇気を頂きました。自分たち自身もペレットストーブを利用することで環境にも地域にも貢献できるという視点を知ることができたことは大きな喜びでした。この学びを、卒業後の進学先や就職先で活かしていこうと思います。



(ライター:羽後高校3年 (左から)大日向優、最上瞬、麻生駿一郎、藤山英璃奈、遠田真冬)(編集:奥ちひろ)

※SDGs 持続可能な世界を実現するための17の目標

NPOの基礎知識

今月のテーマ

事業計画書を作ろう

12月号では、刻々と変わる地域の状況やニーズに合わせて団体の活動もバージョンアップが必要なことや、活動を見直すタイミングと方法について紹介しました。

今月は、事業計画書の作り方についてご紹介します。
(奥ちひろ)

Q. 期限付きのアクションプランが決まったら？

A. 団体が掲げるビジョンを実現するための中期計画（戦略）が決まったら、いよいよ具体的な事業計画書を作ります。これを会員同士で共有し、実践に向かっていくことが大切です。

● 事業計画書の作り方

例) 目次	記載内容	記載例
1、表紙	タイトルや団体名だけでなく、事業計画書が適応する期間（事業年度の初めから終了日まで）の日付を書きます。	2020年4月1日～2021年3月31日
2、今年度の基本方針	目的を達成するため、各事業を実施する上での年度ごとの方針を完結に書きましょう。	中期計画（2019年～2021年度）の2年目にあたる2020年は、中期計画に挙げた2つ目の柱である「ネットワークづくり」を軸に…
3、今年度の事業一覧	今年度行う予定の事業について、一覧にまとめましょう	番号 事業名 1 自殺予防サロンの開催 2 傾聴ボランティアのスキルアップ 3 傾聴ボランティアの養成講座の開催と会員拡大
4、各事業の内容	3で書いた各事業について、順を追って詳細を書きましょう。	事業のねらい、内容、実施の仕方、期待する成果など

Q. これまでの活動方針とは異なる展開をすることになったら？

A. NPO法人の場合は、団体が定款に定めたルールに従って運営されていますが、これから行おうとしている活動が定款の項目に合致していない場合は、定款変更が必要になります。例えば、「目的」を定め直したり、「特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に

係る事業の種類」が変更になったときなどです。その場合は、社員総会を開催して議決ののち、定款変更について所轄庁に届け出る（変更内容によっては登記も）必要がありますのでご注意ください。

聴覚障がい者のための観光マップを作ろう ～それぞれの特性を活かした協働で促進する、誰一人取り残さない地域づくり～

聴覚に障がいを抱える方のための観光マップを作ろうという取り組みが行われています。福祉×観光をキーワードに仙北市・大仙市・美郷町の地域課題について話し合う中から生まれた取り組みで、仙北市に住む聴覚障がい者やその支援者、観光・福祉関係者でつくった聴覚障がい者のための観光マップを作ろう会が中心になって活動しています。秋田県南NPOセンターは、これらの主体の協働を後押しし、支援しています(秋田県「協働の地域づくり推進事業」)。

■ 聴覚障がい者が本当に欲しい情報とは

聴覚障がいは外見だけでは障がいが認識されにくい特性がありますが、仙北市には観光に訪れる当事者も多いといえます。話を聞くと、まちを歩いて分からないことや困ったことがあっても人に尋ねることを遠慮してしまうことがほとんどだそうです。そういった潜在的な不安や不便を少しでも解消しようという観点から、検討を進めてきました。

10月20日には、関西から訪れた聴覚障がい者の方に実際に角館のまちを歩いてもらい、気づいたことを指摘して頂きました。その後、当事者をはじめ、手話通訳者並びに要約筆記者等の支援者、市社会福祉課、NPO、観光関連事業者が一緒になってワークショップ形式による意見交換を行いました。聴覚障がい者には大きく分けて2つのタイプがある等の基礎知識を学ぶことから始め、当事者にとって必要な情報やありがたい情報とは何かなどの要点を整理しま



した。それらの要点を参考に、後日改めてまちを歩いて取材したところ、聴覚障がい者に



配慮した対応を行う施設であることを表す「耳マーク」を設置しているところがほとんどないことが分かりました。

そこで、耳マークに対する理解と普及を目的に、12月9日に説明会を開催したところ、趣旨に賛同してくれた地元観光施設、宿泊施設、観光福祉関係者など12名が参加してくれました。今回参加はできなかったものの、後日改めて説明を聞きたいという方も10名ほどおり、関心の輪は広がりつつあります。この説明会そのものも、当事者やその支援者からの問題提起、提案を受けた仙北市観光課、観光協会、社会福祉課、社会福祉協議会の協力を得て実現したものです。

■ 『聴覚障がい者って、旅行好きなんです』

「聴覚障がい者って意外と旅行好きなんです」、「横のつながりも広くて深いので、マップを通して角館の評判が発信されたら、ここを訪れてくれる人はもっと増えると思いますよ」。これは実際に角館を訪れた当事者から言われた言葉。その言葉がヒントになり、地域に新たな可能性をもたらすかもしれません。

現在、聴覚障がい者のための観光マップを作ろう会は、耳マークも含めた聴覚障がい者に優しい観光情報を落とし込んだマップを年度内に完成させることを目標に、活動中です。完成後には、当事者のネットワークを通して全国に発信されます。その反応が今から楽しみです。

(執筆：高橋茂、編集：奥ちひろ)

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン

2019年12月10日発行
12月号 VOL.148

発行：秋田県あきた未来創造部地域づくり推進課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター(南部市民活動サポートセンター)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00
土・日 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始(12/29~1/3)

〒013-0046 横手市神明1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail: ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/



編集スタッフの
つぶやき VOL.08

共助・共生社会づくり担当
八嶋 英樹

12月に入ってすぐの雪よせで早速の筋肉痛となり、長くなりそうな冬を心配しました。今年は日本各地で集中豪雨による水害、大型の台風による水害が相次ぎ、まさに「これまでに経験したことの無い」水害の年でした。この冬にそれ相当の量の雪が降ってきたら、この地域はどうなるのでしょうか。高齢化、空き家、人口減少などが重なり、これまでに経験したことの無いダメージがあることは間違いありません。これまでの延長で考えてはいけない時代ゆえに、コミュニティの強化など、備える事の大切さを感じずにいられません。